

<b>授業科目名</b>	人間教育学ゼミナール（基礎）(2100309)		
<b>時間割名</b>	人間教育学ゼミナール（基礎）(45106)		
<b>時間割担当</b>	増井眞樹		
<b>実施期</b>	通年	<b>単位数</b>	4 選択
<b>曜日・時限</b>	木・5		

### 授業の目標・概要

人間教育学として、自らが深めていきたい専門領域を決め、基礎科目ゼミナールで身につけたアカデミックスキルを駆使し、専門分野の文献や論文によって見識を深めていきます。必要に応じて、実習や地域交流などを行い、主体的に自らの専門性を深めていきます。

本ゼミナールでは、基礎ゼミナールにおいて身につけてきた内容やアカデミックスキルを活用し、これまでの経験や部活動に関する文献や資料の講読を通して、自らの専門知識や学士力を一層深化拡充していく。尊敬している人や目標としている人の生き方や名言を道徳的価値と関連づけ、自分の体験（エピソード）とつないで、納得したことを集めて自分なりの哲学を探りまとめる。

また、前期においては、教育実習に向けた内容も取り上げていく。

### 学習の到達目標

自らのテーマを設定し、課題解決方法を考えて実践し冊子にまとめる。

・「我々の世界を生きる」から「我の世界を生きる」価値に視点を向けて、自己の生き方を見つめる。

・討議や相互評価を通して、アカデミックスキルを高める。

教育実習における実践力を高める。

### 授業方法・形式

- 1 ゼミのメンバーを2～4名の小グループを組織する。
- 2 学生が主体的にテーマを設定し、課題解決方法を検討し、最終的に発表する。
- 3 見学や講話を含めた情報収集方法、ブレインストーミング、プレゼンテーション、意見交流など多様な活動を行う。
- 4 教育実習における課題を自ら検討し、その対応法などを体験する。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス：「人間教育学ゼミナール」の意義と目標
- 第2回 ガイダンス：研究テーマ設定と履修計画
- 第3回 書籍・資料の収集・分析の交流，実習校の概要を調査
- 第4回 書籍・資料の収集・分析の交流，実習校の課題を把握
- 第5回 書籍・資料の収集・分析の交流，実習校での活動を検討
- 第6回 書籍・資料の収集・分析の交流，実習校での活動と研究テーマの関連を探る
- 第7回 書籍・資料の収集・分析の交流，実習
- 第8回 書籍・資料の収集・分析の交流，実習
- 第9回 書籍・資料の収集・分析の交流，実習
- 第10回 書籍・資料の収集・分析の交流，実習
- 第11回 書籍・資料の収集・分析の交流，実習における課題と成果
- 第12回 書籍・資料の収集・分析の交流，実習について，先輩へ伝えること
- 第13回 実習中の体験と研究テーマとの関連づけの分析
- 第14回 実習中の体験から研究テーマをまとめる
- 第15回 研究テーマの中間発表と今後の課題

#### 【後期】

- 第1回 中間発表の課題を明確にし，後期履修計画作成
- 第2～5回 書籍・資料の収集・講読・事例の選出
- 第6回 事例と道徳教育指導内容との関連
- 第7～9回 事例と自己の体験を結び付けまとめる
- 第10回 これまでのまとめについての評価会
- 第11～13回 評価会を受け加除訂正後，成果物のレイアウトを検討・作成。
- 第14回 成果物の交流，今後の活用方法の検討
- 第15回 1年間のまとめと次年度の研究テーマ

### 成績評価の基準

主体的な授業参加、プレゼンテーション、課題・レポート等を総合的に評価する。

### 授業時間外の課題

自らのテーマにおける課題解決に向けた資料収集、文献講読，まとめ

### メッセージ

水木しげるの幸福の七ヶ条から，つぎの四つを贈ります。

- 第一条 成功や栄誉や勝ち負けを目的に、ことを行ってはいけない。
- 第二条 しないではいられないことをし続けなさい。
- 第三条 他人との比較ではない、あくまで自分の楽しさを追及すべし。
- 第四条 好きの力を信じる。

教材・教科書

参考書